

令和2年度入学 編入学（一般）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	本田 由紀	軋む社会 教育・仕事・若者の現在	双風舎, 2008年より pp.51-54	双風舎
	2	Fred E. Jandt	“Signs and Symbols”, Intercultural Communication: An Introduction	Sage Publications, 2007より pp.100	Sage Publications
	3	徳田 雄人	認知症フレンドリー社会	岩波書店, 2018年より pp.iii-x	岩波書店

令和2年度 編入学（一般入試）

## 社会福祉学部

### 総合問題 (120分)

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、8ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点70点)

メリトクラシー、すなわち業績主義とは、近代社会の主要原理のひとつである。近代よりも前の社会では、身分制度により人間は出生とともに一生の道筋がほぼ決まっていた。だが、近代社会においては、そうした属性主義の社会体制は公正や効率の [ A ] から望ましくないものと見なされるようになった。

その代わりに近代社会において導入されたのがメリトクラシーであり、これは個々人が過去に何をなしてきたか、これから何をなしようかに応じて、社会的な地位を配分する仕組みである。そして、メリトクラシーにおいて重要な役割を果たしてきたのが学校教育である。

メリトクラシーが成り立つためには、社会の構成員が能力を伸ばす機会とそれを証明する [ B ] を、すくなくとも形式的には均等に与えられていなければならない。それを実現する場としての学校教育への社会成員の<sup>ほうせつ</sup>包摂が、近代社会においては進んできた。

学校教育では、同じ教室で、同じ教育内容を与えられ、同じ [ C ] によって教育内容の習得度が計測される。むろん、その習得度には個々人の出身家庭がもつ諸資源の量によって差が生じるが、メリトクラシーに基づく社会と学校は、そうした属性主義的な差異を (ア) カイクムにする責任までは負おうとしていない。

つまり、メリトクラシーは、能力の開発と証明に関する手続き的な公正さを準備することを、その最大の責務としているのである。そして、個々人は、それぞれが示した達成の度合いに応じて、学校教育内部で [ D ] した各ルートや、学校教育外部の社会、とくに職業世界内の各地位に配分されてゆく。

このようなメリトクラシーにおいて計測され評価される能力は、認知的で標準的な記号操作能力(文字や数字、法則などを正確に適用し、操る能力)を主としていた。なぜなら、行政機関や企業など、近代社会を構成する主要な組織においては、整備された指揮命令系統やルール、そしてマニュアルなどに沿って行為する官僚制の原理が支配的であり、そのような組織においては、この種の能力がもっとも有効であったからである。

しかし、ポスト近代社会においては、こうしたメリトクラシーもいまなお生き続けているものの、そこにさらにかぶさるようなかたちで、ハイパー・メリトクラシーが現出しているというのが筆者の見方である。

ハイパー・メリトクラシーとは、非認知的で非標準的な、感情操作能力とでも呼ぶべきもの(いわゆる「人間力」)が、個人の評価や地位配分の基準として重要化した社会状態を [ E ] している。

ハイパー＝「超」という言葉を冠している理由は、従来のメリトクラシーよりもむき出しで苛烈なメリトクラシーだと考えるからである。なぜなら、ハイパー・メリトクラシーは、認知的な能力(頭のよさ)よりも、意欲や対人関係能力、創造性など、人格や感情の深部、人間の全体におよぶ能力を、評価の<sup>そじょう</sup>俎上に載せるからである。

また、ハイパー・メリトクラシーは、手続き的な公正さよりも、その場その場でのアドリブ的な結

果の成否を重視するという点で、不断のパフォーマンスによる永続的な証明を要求するからである。

ハイパー・メリトクラシーは、教育機関や企業などの組織が新たな構成員を選ぶ際の選抜、すなわち採用試験や入学試験においても、また、それらの組織の内部における個人の位置づけや (イ) ショグウが決定される際にも、いっそう (ウ) コウハンに観察されるようになっている。

たとえば、日本経済団体連合会が実施した「2007年度・新卒者採用に関するアンケート調査」の結果によれば、企業が採用選考時に重視する要素は、過去5年間連続して「コミュニケーション能力」が第1位となっている。大学のAO入試などでも、面接の際に意欲や問題意識をいかに示せるかが合否を左右する。

さらに、教育機関や企業の内部でも、高い地位を獲得するためには、対人能力や交渉力、そして問題解決能力など、不定形で柔軟な能力が従来よりも重要化している。この点について森口朗<sup>もりぐちあきら</sup>は、個々の生徒の自己主張力・共感力・同調力に応じた「スクールカースト」が学校のクラス内で形成されており、それがいじめの (エ) オンショウになっていると述べている (森口朗『いじめの構造』新潮社)。

このように、旧来のメリトクラシーにくわえてハイパー・メリトクラシーが台頭している背景には、産業構造の変化や文化・価値の多元化という事態がある。サービス産業や高付加価値多品種少量生産の製造業が中核を占めるようになった産業構造のもとでは、高度な新規需要開拓能力と、接客をはじめとするルーティン的な対人能力が重要化する。

これらはいずれもハイパー・メリトクラシーを招来する。企業組織のフラット化やネットワーク化も同様の結果を生む。また、多元化・多様化した文化や価値を抱くようになったバラバラの個人のあいだで優位に立つうえでも、やはりハイパー・メリトクラシー的な諸能力が必要になる。

とはいえ、このようなハイパー・メリトクラシーは、そのなかで生きる個人、とくに社会のなかでの位置づけが不安定である若者が、みずからの将来の (オ) キセキ=進路を選びとっていく際に、多大な負荷を課すものとなる。

(本田由紀『軋む社会 教育・仕事・若者の現在』, pp.51-54, 双風舎, 2008年より, 一部改変)

問1 [ A ] ~ [ E ] に入るもっとも適切な語句を次の選択肢ア~コの中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

選択肢

ア 意味,	イ 分岐,	ウ 手段,	エ 観点,	オ 教育,
カ 必要,	キ 試験,	ク 左右,	ケ 集約,	コ 反目,

問2 下線部 (ア) ~ (オ) のカタカナを漢字に直しなさい。

問3 メリトクラシーとハイパー・メリトクラシーの違いを180字以上200字以内で説明しなさい。

問4 以下の5つの記述を読み、本文の内容と一致するものを1つ選び、番号で答えなさい。

- 1 学校教育は、人が生まれながらもつ身分等の違いからくる、不公平さをなくすことを目的としている。
- 2 ハイパー・メリトクラシーは行政機関や官僚組織における能力評価に有効とされる。
- 3 産業構造の変化や文化・価値の多元化により、社会的な地位を配分する仕組みが変化している。
- 4 従来頭の良さよりも、人間の全体的能力が評価されるようになり、能力の開発と証明に関する手続き的な公正さが増した。
- 5 意欲や対人関係能力といったハイパー・メリトクラシーに求められる能力は、個人にもともと備わっているものであり、それを求められることに対する負担は少ない。

2 次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 60 点)

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

(Fred E. Jandt, "Signs and Symbols", *Intercultural Communication: An Introduction*, p. 100, Sage Publications, 2007 より, 一部改変.)

(注) arbitrary 恣意的な analogy 類推

Katsumi Masaru 勝美 勝 (東京オリンピックのデザイン専門委員会委員長)

facilitate 容易にする    literate 読み書きできる    swastika 卍 (まんじ)  
bestow 授ける    Jeremy Irons ジェレミー・アイアンズ (イギリスの俳優)  
epidemic 流行    Emmy Awards エミー賞 (アメリカのテレビ関連の業績に贈られる賞)  
Jamie Lee Curtis ジェイミー・リー・カーティス (アメリカの女優)

問 1 下線部①を日本語に訳しなさい。

問 2 文中の空欄 ( ア ) に入るもっとも適切な前置詞を 1 つ書きなさい。

問 3 文中の空欄 ( イ )( ウ )( エ ) に入る語を、以下から選び、それぞれ英語で書きなさい。

arrow / cherry blossom / circle / cross / minus / rose

問 4 次の英文が挿入されるもっとも適切な位置を本文中から探し、その直前の 3 語を抜き出し、英語で書きなさい。

Still, symbol use is arbitrary.

問 5 下線部②を日本語に訳しなさい。

問 6 下線部③について、そのように言える理由を、本文の記述に基づいて日本語で書きなさい。

問 7 文中の空欄 ( オ ) に入るように、動詞 become を文法的に適切な形に直し、書きなさい。

問 8 次の語を並べ替えて、文中の空欄 ( カ ) に入る、もっとも適切な英語の表現を作りなさい。

as / soon / so successful / a symbol / that / there / was / were

3 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 70 点)

ある町に、一人暮らしをするお年寄りがいたとします。このごろ、認知機能が衰えてきて、機械操作が苦手になってきました。お金をおろす際には、ATMではなく、人がいる窓口でおろすようにしていました。そんなときに、その町にあった銀行の支店が、統廃合の影響でなくなってしまい、ATMコーナーだけが残りました。そのお年寄りは、なんとかATMでお金をおろそうとしますが、画面操作が複雑で、うまくお金をおろすことができません。画面には、小さな文字で多くの注意書きが並んでおり、「はい」や「いいえ」といった選択肢を正しく押さないと、次の画面へ行くことができません。周りの人に手助けしてもらいたいとは思っているものの、見ず知らずの人に声をかけるのもむずかしい。お金を自分でおろしたり、自分で管理することもむずかしいので、介護施設に入る時期なのかもしれないと思うようになりました。

この話を聞いて、①これは誰が解決すべき課題で、何が課題の本質だと思われるでしょうか。

ATMの操作がむずかしいということは、認知機能の低下に起因しています。このお年寄りがATMを操作できるようにするため、何らかの治療や訓練をしたらよいのでしょうか。

認知症の進行を②ヨクセイする薬を飲んだり、運動や認知機能の訓練をしたりすることで、ある程度、認知機能の低下が防げることはありますが、劇的に認知機能が向上し、ある日突然、ATMが使えるようになるということはあまりありません。

福祉の関係者がお金をおろすときに付き添ったり、お金の管理を別の人がサポートしたりすればよいと考える人もいます。実際、日常のお金の管理をサポートする制度はあります。こうしたニーズがある人が地域のなかでとても少なければ、税金などを財源にした福祉制度でサポートをする人をつけるというのも手かもしれませんし、たまたま経済的に余裕のある人ならば、全額自費で負担して、こうしたサポートを受けることもできるかもしれません。

実際に町の金融機関などに行くと、こうした操作で困ってしまう人、行員のサポートを受けながら振り込みや引き出しをしている人を多くみかけます。お金の管理ということだけに限定すれば、こうした制度で解決することは可能だと思いますが、地域のすべての高齢者の生活で起こる、買い物や移動、通信など、さまざまな課題を、それぞれの専門のサポートをつけて解決するという③ジンカイセンジュツは、財政的に現実的ではないでしょう。

もうひとつ、違う方向からのアプローチがあります。それは、金融機関側のサービスを高齢者や認知機能が低下した人でも使いやすいもの(認知症フレンドリーあるいはエイジフレンドリー)にすることです。ATMであれば、表示する字を大きくしたり、ボタン操作を少なくしたり、より直感的に操作できる仕様に変更することができるかもしれません。また将来的には、画面操作ではなく、ロボットなどとの会話によって利用できるようになるかもしれません。

ATMなどとは別に、高齢者向けに人が対応する専用のサービスを始めるという選択肢もあるかもしれません。日本ではまだ本格的には始まっていませんが、オランダやニュージーランドの銀行では、④コキヤクサービスの一環として、高齢者の人向けに別室で対応するコーナーを設置する金融



機関もでてきています。

もちろん、こうした対策だけで、軽度から重度、すべての認知症の人が銀行を使えるようになるわけではありません。しかし、自立して一人でなんでもできるという状態と少しか支援が必要な状態の境界にいる人は、環境が改善されることで、自立した生活が送れるようになるのです。

認知症というと、病院に行くと薬がでて、症状が改善するというようなイメージを持つ人も少なくないと思います。しかし実際には、先に述べたように薬を飲んだり、訓練をおこなうだけで、ATMでお金がおろせないといった生活上の課題が解決するという事は、ほぼありません。医療やケアなどのサービスを受けながらも、生活上で起こってくる課題を、周りの人と相談しながら、工夫を重ねて、ひとつひとつ解決していかないといけないというのが、認知症の人をとりまくリアルな状況です。そして、生活上の課題というのは、症状から起因しているという側面もありますが、同時に、ATMの仕様や銀行の高齢者対応のような環境によって引き起こされている課題でもあるのです。

(中 略)

認知症のことを取材していたときに、さまざまな現場にお(中)ジャマしました。ある農村では、医学的には、認知機能もかなり低下したけれど、農業を続けて、近所の人たちとも仲良く、楽しい生活を送りつづけている方がいました。その一方で、都心に住む方は、認知機能の低下がまだそれほどでもないけれど、過去に道に迷った経験があり、電車やバスを利用するのに不安があり、家にこもってしまっていました。

症状の進み具合と、日常生活や社会生活に支障をきたしているかどうかは、必ずしも比例していないことに気づかされました。もっと言えば、さきほどのATMの例のように、その人をとりまく環境しだいで、支障がでてくる場合もあれば、支障がでてこないこともあるのです。

もちろん、原因となる病気には、それぞれ診断基準があり、生活上困っていればすべて認知症ということではありません。医療につながることで、他の原因がわかって、症状や課題が解決するという事も少なくありません。正確な診断が大事なことは言うまでもありません。

また認知症の人、そして家族が日々の暮らしや介護などで、深刻なきびしい状況にあることも、現実には全国各地であります。

しかし、総体としての認知症というのは、認知症であるその人と周囲の環境とのあいだに起きる現象、社会現象でもあることがわかります。現在、一部の種類を除くと、アルツハイマー病をはじめ、主な原因となる病気を根治する治療法はまだありません。

一方で、(中)社会現象としての認知症については、対応する道があり、解決することもできるのです。認知症はあるけれど、農業を続けて、いきいきと暮らす人がいるのであれば、そうした風景を実現できている周囲の環境はどのようなものなのか、それを他の地域で実現するためには、どのような機能が必要なのかを考えることで十分実現可能なことになってきます。

(中 略)

今まで認知症というテーマは、認知症の人を周囲がどのように支えるのかといった視点が主流でした。認知症でない私たちが、認知症の人を [ A ] の存在にとらえ、どう支援するのかという視点で

す。しかし、認知症が、高齢化していく私たちと絶えず変化していく社会とのあいだでおこる現象だととらえると、これは決して [ B ] の問題ではなく、[ C ] の問題となります。

歳を重ねていくなかで、誰しも多かれ少なかれ、脳の機能が低下していきます。そうしたときに、私たちをとりまく交通や通信手段、金融機関、スーパーやコンビニ、行政サービスは、はたして使いやすいものなのか。そうしたものが使いにくくなったときに、私たちは、物理的に、社会に、“排除”されてしまうのではないだろうか。“あちら”にいて、何か困っている人に手を差し伸べるという従来の福祉的な話ではなく、このままだと将来、私たち自身が排除される社会になってしまうのだという“こちら”の話なのです。

そうしたことを考えたとき、認知症のことをもっときちんと考える必要があるのは、高齢者や医療福祉の関係者だけでなく、むしろ、生活を支える産業で働く人たち、福祉とは直接には関係のない行政で働く人たち、若い世代を育成する教育関係者などではないかと考えます。

(徳田雄人『認知症フレンドリー社会』, pp.iii-x, 岩波書店, 2018年より, 一部改変)

問 1 下線部(ア)～(エ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 下線部①「これは誰が解決すべき課題」とあるが、ここでいう課題はどのようなもので、その課題を解決するのは誰なのかについて、本文をふまえて 150 字以上 170 字以内で説明しなさい。

問 3 [ A ] ～ [ C ] に入るもっとも適切な語句を次の選択肢ア～イの中から選び、記号で答えなさい。

選択肢

ア あちら	イ こちら
-------	-------

問 4 下線部②「社会現象としての認知症」とあるが、「社会現象」について説明している部分を本文から 2 か所抜き出し、それぞれ 35 字以内で書きなさい。